

薩摩川内市

23日に大綱案を決定

第3回行革推進委員会



素案の改訂内容を示した委員会
＝薩摩川内市の市役所で

で市民が分かる言葉で書くべきだ」等の付言もあった。9日の第4回委員会で

全分野で民間参入検討

千職員数 来年度から順次着手

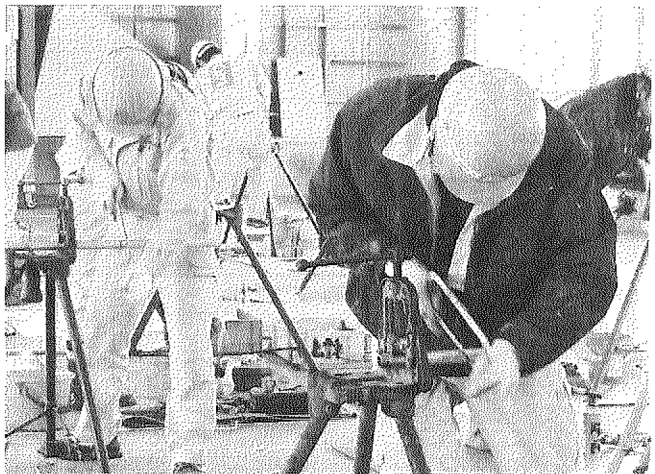
薩摩川内市の第3回行革推進委員会

革推進委員会で職員、嘱託員、臨時職員の「地域別・組織別・出先機関配置職員数」が資料として提出された。

現在、職員数は1381人。嘱託649人、臨時415人の合計24445人(県費派遣職員15人を含む)。15年度の人件費は約107億円。26年度までに25%減の約80億円以内に削減。職員数では1000人規模に削減(中長期財政運営指針)。

嘱託員、臨時職員は事務効率化や外部委託・民営化等を通して削減する方向で追記された。

建築配管技能検定実技試験



真剣に組み立てる受検生
＝国分市の県人材育成センターで

県内各地から130人挑む

16年度技能検定配管(建築配管作業)の実技試験が3日、国分市の県人材育成センターで実施され、離島を含む県内全域から約130人が受検した。試験は5日まで。初日の3日には、参加した1級9人、2級24人

県100人委「人づくり分科会」

父親の参加が重要



県民が幅広く県政への提言などを行う県100人委員会(7分科会で構成)の中の第2回「人づくり分科会」が3日、鹿児島市の県議会庁舎で開かれ、「学校における人づくり」をテーマに義務教育について各委員から

合格の台図が出ると、ガッツポーズで喜ぶ受検者もいた。受検者の一人、(南三和住設の新杉哲也さんは「練習の成果が、落ち着いてできました。多

活発な意見が出された「人づくり分科会」鹿児島市の県議会庁舎で

強委員(KTS鹿児島テレビ代表取締役社長)は、鹿児島の郷土教育の素晴らしさを貴重な財産として捉えながら、教育現場に取り入れるような試みも必要では、「義務教育の時期から自分の意見を発言できるような機会を与えることも重要」などと提言した。

均衡あるまちづくりを

第1回かこしままちづくり会議

合併後の新市まちづくりについて協議を行う第1回かこしままちづくり会議が3日、鹿児島市の市民福祉プラザで開かれた。

協議では、新市まちづくり計画における基本方針等について事務局が「少子高齢化など社会環境の変化を的確に捉えた整備が重要」などと説明した。また、1月に行われた5地域でのまちづくり会議の要望事項として

会議は、旧5町域(吉田・桜島・喜入・松元・郡山)のまちづくり協議会長や鹿児島市職員、団体、学識経験者等を委員に構成。森博幸市長は「中心部に限らず、旧5

入地区・生見海水浴場の整備」などを挙げ、委員期待する」などと述べた。第2回会議は3月7日



新市まちづくり計画等を説明した会議
＝鹿児島市の市民福祉プラザで

県建築士会指定講習会

法改正の動向等解説

県建築士会(川上道夫会長)は3日、国分市の県人材育成センターで「建築士のための指定講習会」を開き、会員や一般から約100人が参加して法改正の動向やシックハウス対策等について知識を深めた。

謝申し上げたい。本日はCPD及び専攻建築士制度についても講習するの

契約への対応などテキストに基づいて説明。出席者はメモを取りながら熱心に聴き入っていた。

また、当日は岩下剛鹿児島大学工学部建築学科助教授が「建築士のためのシックハウス対策ノート」、藤宮宏文県建築士会専務が「CPD制度及び専攻建築士制度」について説明。今村裕樹アシスト設計社長、塩屋晋一鹿児島大学工学部建築学科助教授がそれぞれ「技



熱心に受講する参加者ら
＝国分市の県人材育成センターで

手軽で便利な
送料のお支払いは
自動振替で

鹿児島建設新聞
099-227-5100へ